

# 平成 28 年度第 2 回 新庄市総合教育会議 会議録

開催月日	平成 28 年 12 月 20 日 (火)
開催場所	新庄市役所東庁舎会議室
出席者	山尾順紀市長 (座長)、山村明德教育委員長、阿部浩悦教育委員、阿部仁美教育委員、齊藤浩昭教育委員、武田一夫教育長
欠席者	なし
事務局	荒川正一教育次長兼教育総務課長、齊藤民義学校教育課長、関宏之社会教育課長 東海林美紀社会教育課主幹、佐藤教育総務主査、青木施設整備主査、柴崎学事主査、大町主査、三宅主事

## 議 事 の 大 要

午後 3 時 56 分より、市長のあいさつで、平成 28 年度第 2 回新庄市総合教育会議を開会する。

### 1. 開 会

### 2. 市長あいさつ

### 3. 協 議

#### (1) 平成 28 年度全国学力・学習状況調査結果について

(市 長) (1) 平成 28 年度全国学力・学習状況調査結果についての説明を事務局からお願いします。

(齊藤民義学校教育課長)

※※ (1) 平成 28 年度全国学力・学習状況調査結果について、資料により説明する。

平成 28 年度の全国学力・学習状況調査結果について、「自校診断シート」が小学校版・中学校版という事で別々に表記されています。説明資料の中で青印となっているのが全国平均より良い、黄色印が全国平均と同程度、赤印が全国平均より悪いという意味となっております。特筆すべき事項としては、全国平均より携帯電話・スマホの使用時間、テレビ・ビデオの視聴時間が長くなっているという課題があり、家庭学習の面で家庭との協力が必要だということかと思えます。

(市 長) 時代によって子供たちを育てる親のライフスタイルも変化してきており、一概に家庭学習面での課題をそのようなライフスタイルの変化のせいにもできない印象があります。しかし子供はやはり親の背中を見て育ちますから、社会教育の重要性が増しているかと思えます。また子供の成績を伸ばす一番の原動力は「目標がある」という事かと思えますが、この調査結果を見ると「将来の夢や目標がある」という調査で、小学生で全国平均と同程度、中学生で全国平均より悪いとなっている事が印象的です。先日、幼稚園教育会の皆様と話す機会が有りまして、新庄の企業紹介をしました。そうしましたら新庄にもすごい企業が多くあるのですねという驚きの反応があり、地元そのような企業があるというのは身近な目標になるとも思えます。

また家庭学習が大事ということも分かりますが、学校での授業改善というか先生たちの指導力も大事だと感じています。先生が子供たちにかける言葉、その言葉一つ一つの選択が重要だと思います。先生が子供たちを引き込んで興味を引くことが、子供たちの興味・関心を生む事ができるからです。

(委員長) 先日行われました新庄小学校の公開授業研究会を見まして、変わったなと感じたことがあります。それは子供たち主体で授業が進み、教員は授業におけるポイント・ポイントで話をしているという点でした。やはり県の委嘱事業を受け、探求型学習を実践している成果だと感じた所ですが、教育委員会の学校訪問で他を視察するとまだまだ板書中心の授業が多いなとも感じますし、単元の区切りができず授業が終わってしまうといった授業現場を見る事も多いと感じています。どの先生も同じ水準での授業ができるという事が重要で、子供たちの学力を上げる方法だと思います。

(市長) 学力・成績に関して、感じる事としては成績が芳しくない子を良くするという事も重要で大切だと思います。ただし成績の良い子をもっと良くする環境が作られていない事が新庄市の教育環境としては、課題だとも感じています。

(教育長) そのような環境が作られていない要因の一つに教員の多忙化が挙げられると思います。校務分掌に追われ、子供一人ひとりに向き合う時間が取られていないという事だと思います。ただ秋田県の東成瀬村においては、「子供の主体的な学習」を動機付けられる授業、学びあいの質が違う授業を実践し、その中で出来る子をより伸ばす事が可能な環境を作っているという事ですので、新庄市でもできない事ではないと考えます。

(齊藤民義学校教育課長) 教員たちも日々、苦しみ・悩みながら授業を行い、どう改善していくかを試行錯誤しております。また先ほど委員長がおっしゃった授業の区切りの面ですが、やはり子供主体の授業づくりをするとまとめができなくなってしまうというそういったジレンマもあるとは思いますが、子供たちの意欲的な姿も見取れるので、見守っていきたいと感じます。

(市長) 子供たちが目標や将来への想いを話す機会はあるのでしょうか。

(齊藤民義学校教育課長) 小学校4年生で2分の1成人式、中学校2年生で立志式が有り、その場で親御さんたちの前で発表する機会があります。

(市長) 職業意識を小さい時から意欲的に持つことが重要だと考えますし、その出発点は一番身近な親の背中だとも思います。

(教育長) 先ほど市長もおっしゃりましたが「将来の夢や目標がある」という調査で、小学生で全国平均と同程度、中学生で全国平均より悪いとなっている事がなぜなのだろうと感じています。

(市長) 子供たちが成長していく中で見えてくる景色の変化や現実の自分と理想の自分とのギャップが要因なのかと思いますが、それでも目標を持ち続ける事が一番重要だと感じます。

(教育長) 小学校・中学校の児童・生徒への地元に残りたい・地元で就職したいという意識付けは現状を見るとより必要かと思っています。

(市長) 地元子供たち全員が残る事が一概に良いとは言えませんが、一回外に出て外を経験して戻ってくるケースも往々にしてあるとは思いますが。その中で新庄市の良さを再発見してくれたら素晴らしい事だと思います。また新庄出身者が全国・世界で活躍できるようなそういったトップの人材を育てることも大事だと思います。

教育委員の皆様、ほかに意見・質問等有りますか。

(阿部浩悦委員) 家庭でも学校でも子供に語る、子供がどう将来的に社会へ役立てるかのビジョンを語る必要があるかと思っています。先輩や先生等の第三者の役目というのも重要だと感じます。

(阿部仁美委員) 子供は親の背中を見ています。親が楽しく仕事をし、社会に役立っている姿を見せていけば、自ずと子供は親の姿を追うと思います。

先ほど委員長からもありましたが、探求型学習については昔の授業と比較し、かなり形態が変化しているので、先生も戸惑うだろうなという印象です。現在の先生たちは様々な模索を行いながら、子供たちと接しているわけで大変だとは思いますが、頑張っていただけだと感じています。

(齊藤浩昭委員) 自分の長男が今年 20 歳になりました、その長男にとって自分自身は魅力ある仕事の仕方をしているのかと感じているところです。また地元に残る・戻ってくるという点では、「仲間がいる」という事が大事だと感じます。また学力が重要なことは言うまでもないのですが、やはり社会に出れば、コミュニケーション能力も必要不可欠だと感じています。最後に調査結果においてスマホ等のメディアの使用時間の長さが課題とありましたが、そういったメディアの使い方や注意すべき事を学ぶ機会も今まで以上に小学校・中学校の時から必要だと思えます。

(市長) 自分自身の経験から「人生観」を含んで語る事ができる教員との会話が大きかったと感じています。また成績も大事ですが、やはり齊藤委員がおっしゃったコミュニケーション能力の育成が私も重要だと感じ、他とは違う新庄市独自の生きる力を持った新庄っ子の育成が必要だと感じます。そしてふるさと学習の効果についてですが、新庄の素晴らしいもの、ところを知り、自分が、家が守らなければならないものがあるという事は、地元に残る・戻るという意味では確かな原動力に成り得ると感じますので、今まで以上にふるさと学習を推進していただけたらと感じます。

(委員長) 地域がどれだけ子供たちに関わったかが、子供たちが感じる故郷への愛着に繋がると思いますが、地域が、その地域の大人が子供たちにどれだけ、なにをしたかは子供たちが一番感じていると思うからです。

(市長) 最後に、映像を使った授業は行われているのでしょうか。

(齊藤民義学校教育課長) 電子黒板等を使ってデジタル教科書を使用した授業は行われております。

(市長) NHKのEテレ等をたまに見ますが、大変良い説明をする番組もあるので、活用できないかと思ったところでした。

(市長) (1) 平成 28 年度全国学力・学習状況調査結果についてほかに意見等はありませんか

(出席者) ありません。

#### 4. その他

なし

#### 5. 閉会

午後 5 時 14 分、閉会する。